



～年間聖句～「だから、キリストと結ばれる人はだれでも、新しく創造された者なのです。古いものは過ぎ去り、新しいものが生じた。」コリントの信徒への手紙Ⅱ 5章17節

## 「みんないい顔してるよ」

みんな「いい顔」をしています。それは、ただ楽しい表情をしているというだけではないのです。何かにチャレンジしようとする時には、想定外がつきものです。つらいときもあります。だけど、脇目もふらず、目の前のことに熱狂し、夢中になっているその表情は、楽しい時も、大変な時も、「いい顔」だと思うのです。

私たち女学院の教師は、生徒一人一人の「いい顔」を見て、たくさんのエネルギーをもらっています。

「いい顔」のきっかけを自分でデザインすることは大切です。そのきっかけに学年は関係ありません。さまざまな場面で、タイミングで、人は「いい顔」になります。2学期も笑顔で、真剣に、ひたむきに取り組む生徒を応援していきたいと思います。

「いい顔」になるために、みなさんに言いたいことがあります。それは、「何かにとらわれていないか」ということです。知らず知らずのうちに凝り固まった考えをしていないかということ。実は、何より見方が固まりがちなのは、自分が思う自分像なのです。「私はこういう人間だから」「どうせ私はこの程度だから」と無意識のうちに、自分というものへの認識が狭まり固まっていないかということ。私はこのマインドでは、「いい顔」にはならないと思っています。

そこで、多面的な自分を知ってほしいと思います。そのための、あるワークを紹介します。

次のルールで「たくさんの私」を書き出してみましょう。

「私は〇〇〇な×××である」という構文を最低10個、できれば20個書いてみよう。「×××」は名詞、「〇〇〇」はそれを修飾する言葉、いずれも同じものを2回使ってはいけません。

ワークの実際で見ると、個数を重ねていくと、当たり前の内容からどんどんユニークな内容になっていきます。例えば、「私は手先が不器用な大工である」（ものごとの構造は好きだが、自分で組み立てることは苦手だから）、「私はニンジンが嫌いなウサギである」（見た目で決めつけられがちな性格と実際の自分が違うように感じるから）のような“矛盾”する自分を発見したり表現したりする人もいます。こうして出てきた「たくさんの私」を集めて、「新しい私」を表現するキャッチフレーズを考えたりします。

こんなワークですが、自分が自分にハマている枠のようなものを広げるきっかけになるかもしれません。

もしかしたらみなさんの中には「私はこういう人間」と無意識に決めつけて、進路の選択肢を狭めている人がいるかもしれません。私たちには本来、たくさんの顔があるのです。「整合性のとれた一種類の私」という幻想から脱して、見方や捉え方をもっと柔軟く広げてほしいと思います。すると、それまで気付かなかった新しい自分が表に出てくるかもしれません。

2学期も「成長はたし算」「チャーミングなファーストペンギン」を意識していこう。

7月15、16、17日の授業公開のご来校ありがとうございました。来校者数は中学94名、高校71名、合計165名、昨年度より42名増でした。朝の礼拝に参加していただいた方も多く、本校の日常を感じていただけたのではないかと思います。